

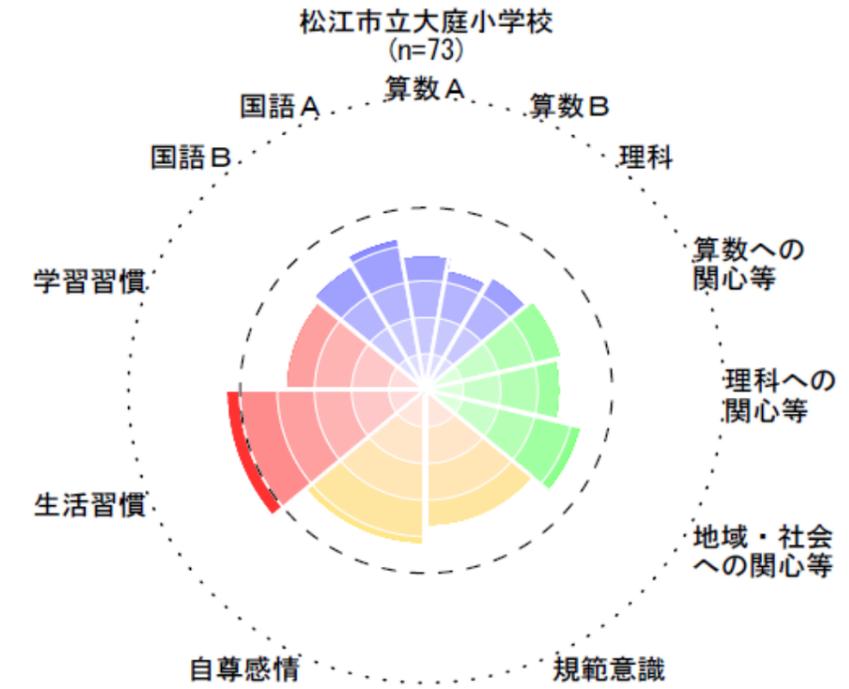
平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立大庭小学校）

平成30年9月25日

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
国語	A (基礎)	○「話す・聞く」に関しては、全国平均を上回っている。 ●選択式の問題が中心であるにもかかわらず、無解答率が高い。	・問題文や質問をきちんと読んで、理解する力が弱い。授業で文章を読むときも目的がはっきりした読みになるよう、要約する、読み比べるといった活動を積極的に取り入れる。 ・漢字オリンピックの結果等を生かして、個々の能力の把握に努め、実態に応じた支援をしていく。
	B (活用)	○記述式に比べて、選択式がやや正答率が高くなっている。 ●どの観点でも平均を下回っているが、特に「読む」に関しては、正答率が低く、無解答率が高くなっている。	・「読む」に関しては、読んで正しく理解できるように、アウトプット前提で読む活動を中心にしていく。そのための読みのスキルを教師の側から示していく。 ・説明することに抵抗を感じている児童は多い。まずは、短作文から取り組み、レベルアップしていきけるようにする。
算数	A (基礎)	○全体的に平均を下回っているが、「数と計算」「量と測定」に関しては、大きなマイナスにはなっていない。 ●「百分率」「グラフの読み取り」等の問題は正答率がかなり低く、無解答率も高くなっている。	・基礎となる計算力、知識力を上げていくために、計算オリンピックで間違えた問題は、できるまで何度も繰り返し行う。 ・児童の苦手な問題に関しては、前学年の内容であっても、ハッピーアップタイム等にドリルやプリントで取り組むことで、克服できるようにしていく。
	B (活用)	○選択式の問題の方が若干無解答率が低い。 ●どの形式の問題でも正答率は低いが、特に記述式の問題では大きく全国平均を下回った。さらに、無解答率もかなり高い。	・まず問題文(長文)を読むことへの抵抗をなくすため、他教科とも関連付けて、読む練習や情報を整理する練習をする。 ・習熟度別学習形態を生かすなど、個別に支援が必要な児童への支援体制を充実していく。
理科		○正答率が低い問題でも、無解答率はそこまで高くなく、取り組もうとする意欲を感じることはできた。 ●実験の方法そのものの知識も十分ではないが、実験結果を基に考察して文章を書くなど、文章で表現する問題に対する苦手意識が強い。	・授業の中で学習した内容、実験結果等が定着するために、まずは学習意欲を高めて、授業に集中できるように授業改善をしていくことが必要。 ・文章を「書く」力をつけるために、書いたことを話し合うなど、決めたテーマで書くことが必要。

(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



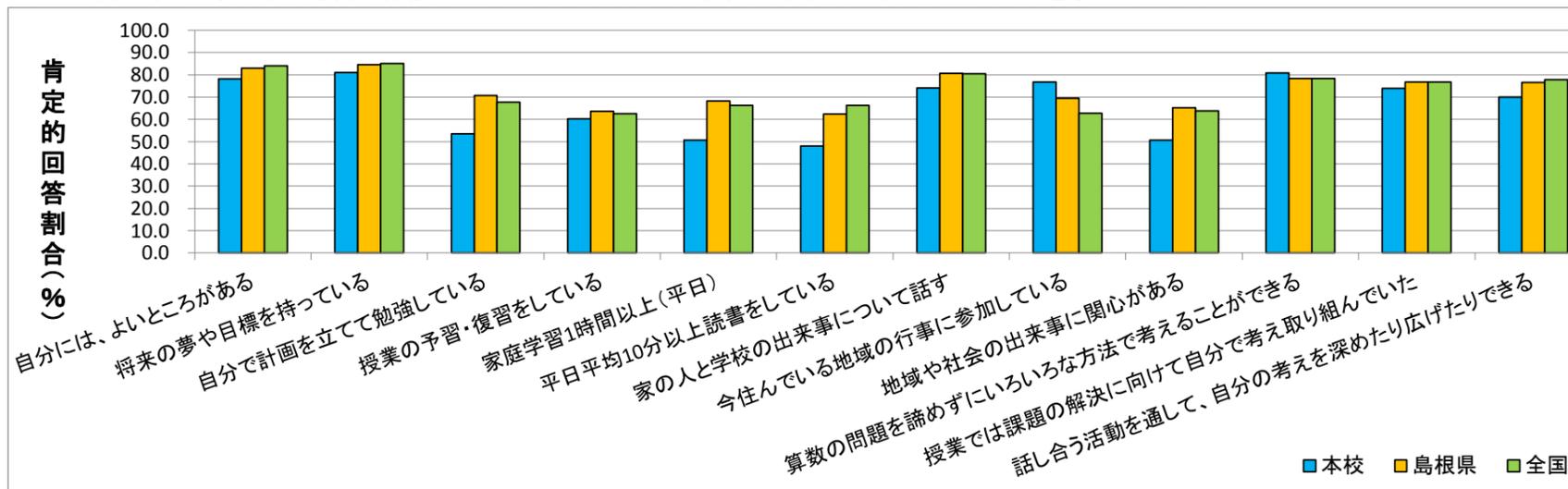
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
		○朝食、起床、就寝など正しい生活習慣が身についている。 ●家庭での学習時間、読書の時間が平均より少なく、学習習慣が身につくとは言えない。 ●「算数」「理科」ともに「好き」「よく分かる」のように肯定的な回答をした児童の割合がかなり低い。	・家庭において正しい学習習慣を身に付けることができるよう、保護者と連携しながら、繰り返し、継続した指導をしていく。 ・学びたいという意欲の向上を目指して、まず教師が分かりやすく、楽しい授業が行えるよう、教材研究に努める。

(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・文章を読み、理解していくために、読書指導の徹底は重要。全校みんなで系統的(各学年)、横断的(各教科)な取り組みをしていく。
・結果はもちろんだが、原因を把握することも重要。必要に応じて実態調査を行い、その結果を基に、個に応じたピンポイントの支援ができるようにしていく。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率

		本校	松江市	島根県	全国
国語	A	64	70	68	70.7
	B	45	57	55	54.7
算数	A	52	62	61	63.5
	B	35	50	49	51.5
理科		50	59	58	60.3

受検者数 73人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。